

2-3 履修方法

1) 全学共通科目

全学共通科目は人文・社会科学科目群、自然科学科目群、外国語科目群、情報学科目群、健康・スポーツ科目群、キャリア形成科目群、統合科学科目群、少人数教育科目群の8科目群に区分されます。これをもとに人間健康科学科は卒業に必要な科目数と単位数を定めています。詳細は「全学共通科目履修の手引き」を参照してください。人間健康科学科の学生が修得すべき全学共通科目の単位は次のとおりです。特に履修が望まれる科目がありますので、注意してください。

人文・社会科学科目群	10 単位以上	8 単位以上 ※	履修することが望ましい科目は下表を参照。 英語 8 単位（「英語リーディング」計 4 単位、「英語ライティングーリスニング A・B」各 2 単位計 4 単位を修得すること）、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、朝鮮語、アラビア語のうちから 1 か国語 8 単位以上、計 16 単位以上修得すること。	
自然科学科目群	10 単位以上			
外国語科目群	16 単位以上			
情報学科目群	10 単位以上			履修することが望ましい科目は下表を参照。
健康・スポーツ科目群				履修することが望ましい科目は下表を参照。
キャリア形成科目群				
統合科学科目群				
少人数教育科目群				
合計	54 単位以上			

※各科目群の必要単位数を満たしたうえで、8 科目群より自由選択で 8 単位以上修得すること。
(総合医療科学コースでは、うち 8 単位を自然科学科目群から選択すること。)

E 科目	上記の単位数のうち 4 単位以上含むこと	科目群を問わず計 4 単位以上を含めなければならない。うち 2 単位は E2 に指定されている科目を含むこと。(学科が推薦する E 科目 (E2) は次表を参照)
------	----------------------	---

履修することが望ましい科目

科目名	単位数	選択履修区分	群
微分積分学 (講義・演義) A	3	○	自然科学科目群
微分積分学 (講義・演義) B	3	○	同 上
線形代数学 (講義・演義) A	3	○	同 上
線形代数学 (講義・演義) B	3	○	同 上
物理学基礎論 A	2	○	同 上
物理学基礎論 B	2	○	同 上
物理学実験	2	○※	同 上
基礎化学実験	2	○※	同 上
基礎有機化学 I	2	○	同 上
細胞と分子の基礎生物学	2	◎	同 上

統計入門	2	○	同 上
情報基礎演習	2	◎	情報学科目群
情報基礎	2	◎	同 上
スポーツ実習 I A または I B	1	○	健康・スポーツ科目群
健康・生命科学入門	2	◎	同 上
「薬の世界」入門	2	○	同 上
リハビリテーション概論	2	○	同 上

◎：履修することを強く推奨する科目

○：履修することが望ましい科目

※：総合医療科学コースでは選択必修（総合医療科学コースでは物理学実験または基礎化学実験のどちらかの単位を修得することが卒業要件となっているため、同コースを選択する可能性がある場合には履修し、単位を修得すること）

学科が推薦する E 科目 (E2)

科目名	単位数	群
Data Analysis Practice II-E2	2	自然科学科目群
Structures and Mechanisms of Human Movement-E2	2	健康・スポーツ科目群
Introduction to Basic Concepts of Health Psychology-E2:Communication Issues and Decision-making in Patient Care	2	同 上
Cultural Aspects of Health Care-E2	2	同 上

学科が推薦する E 科目 (ILAS Seminar-E2) ※

科目名	単位数	群
ILAS Seminar-E2: Let's create 3D computer animations (三次元アニメーションを作ってみよう)	2	少人数教育科目群
ILAS Seminar-E2: Let's simulate human movement (コンピューターで人を動かしてみよう)	2	同 上
ILAS Seminar-E2:Clinical and ethical issues within palliative care- the European Context (ヨーロッパにおける緩和ケア)	2	同 上
ILAS Seminar-E2:Understanding and critical appraisal of qualitative research methods in health care (ヘルスケアにおける質的研究)	2	同 上

※ ILAS Seminar-E2 は少人数教育科目群のため人数制限があるので注意すること。

2) 専門基礎科目

専門基礎科目は、「初年次教育」、「専門基礎・臨床」、「発展基礎」で構成され、医療専門職に進む学生が共通して学ぶべき医学・医療領域のコアカリキュラムと位置付けられる重要なもので、全てあるいは複数のコースに共通する専門領域の基礎概念および基礎知識を理解するための科目です。全学共通科目と並行して第Ⅰ Semesterより第Ⅳ Semesterまで（一部科目は第Ⅴ, Ⅷ Semester）に、人間健康科学科の学生はコース共通で履修することとなります。

履修科目、単位数、授業時間数、配当年次は次のとおりです。なお、詳しい講義内容についてはシラバスを参照してください。

区分	授業科目	セメスター (配当年次)	単位数	時間数	看護	リハビリ		総合	
						理学	作業		
専門基礎科目	初年次 教育科目	人間健康科学Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ (1前)	1	15・30	必	必	必	必
		人間健康科学Ⅲ・Ⅳ	Ⅱ (1後)	1	15・30	必	必	必	必
		人間健康科学Ⅴ	Ⅰ (1前)	2	90	必	必	必	必
	専門基礎・ 臨床科目	解剖学	Ⅲ (2前)	2	30	必	必	必	必
		肉眼解剖学Ⅰ	Ⅲ (2前)	1	30	必	必	必	必
		肉眼解剖学Ⅱ	Ⅴ (3前)	1	30		必	必	
		運動機能解剖学	Ⅳ (2後)	2	30	選	必	必	
		生理学Ⅰ	Ⅲ (2前)	2	30	必	必	必	必
		生理学Ⅱ	Ⅲ (2前)	2	30	必	必	必	必
		生理学実習	Ⅳ (2後)	1	30	選	必	必	
		神経生理学Ⅰ	Ⅳ (2後)	2	30	選	選	選※1	
		神経生理学Ⅱ	Ⅳ (2後)	2	30	選	選	選※1	
		組織学	Ⅲ (2前)	1	15	選	選	選	選
		基礎運動学	Ⅳ (2後)	1	15	選	必	必	
		臨床コミュニケーション論Ⅰ	Ⅳ (2後)	1	15	必	必	必	
		病理学概論	Ⅲ (2前)	2	30	必	必	必	必
		薬剤・薬理学概論	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
		生体防御学	Ⅲ (2前)	2	30	必	必	必	必
		生化学概論	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
		公衆衛生学Ⅰ	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論A	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論B	Ⅳ (2後)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論C	Ⅳ (2後)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論D	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論E	Ⅳ (2後)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論F	Ⅳ (2後)	1	15	必	必	必	必
		臨床疾病論G	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
		精神医学各論	Ⅳ (2後)	1	15	必	必	必	
		整形外科各論	Ⅳ (2後)	1	15	選	必	必	
		医療統計学	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必
発展基礎科目	臨床研究・臨床開発概論	(後)※2	1	15	必	必	必	必	
	医療倫理・生命倫理概論	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必	
	医療管理・医療安全概論	Ⅲ (2前)	1	15	必	必	必	必	
	ビッグデータ医科学総論	(後)※2	1	15	必	必	必	必	
	iPS 再生医療学概論	(後)※3	1	15	必	必	必	必	

※1：先端リハビリテーション科学コース作業療法学講座を選択する可能性がある者、特色入試および学士入試で作業療法学講座に入学した者は履修することを強く推奨する。

※2：先端看護科学コース・総合医療科学コースは第Ⅳセメスター（2後），先端リハビリテーション科学コースは第Ⅷセメスター（4後）。

※3：先端リハビリテーション科学コースは第Ⅷセメスター（4後），先端看護科学コース・総合医療科学コースは第Ⅳセメスター（2後）。

3) 専門科目

[先端看護科学コース]

①専門教育

先端看護科学コースでは、第IV Semesterから看護学の基礎となる「基礎看護学」、「臨床基礎看護学」さらに、地域で生活する人々の健康に主眼を置いた「地域看護学」を学習します。これらの科目は、看護学において基本的な概念となる人間、環境、生活、健康に対する理解を深めると共に、看護に対する興味を新たにし、各自の看護観を形成するための基礎となるものです。

第V Semester以降は、成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学の各領域の科目が本格的に始まります。ここでは、人体の構造や機能、病理などの専門基礎科目や基礎看護学の学習を踏まえ、各領域の特性や捉え方、疾患をもつ人や状況のアセスメント、必要な援助方法などを学習します。

②臨地実習と卒業研究

先端看護科学コースでは、第IV Semester以降段階を追って実習を行います。第一段階となる「臨床基礎看護学実習」では、入院生活の意味やその人にどのような援助が必要かを考え、基礎的な技術を通して援助を実践する力を養います。

第二段階では、成人看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学の実習を通し、各領域の捉え方や実際の援助方法を学習し、看護学の特性についての理解を深めます。また、これらの実習を通して、他職種との連携や協調についても学習することで、学際的かつグローバルな見方を身につけます。

第三段階では、在宅看護論実習、地域看護学実習（保健師選択課程を履修する者）を通して在宅や地域における実際の支援方法を学習し、第二段階までの実習を統合して、看護の対象や看護が展開される場についての理解を深めます。

第四段階では、それまで学習した領域の中から各自のテーマに沿って一領域を選択し、実践を踏まえて研究としてより深く探求していきます。研究はテーマに沿って国内外の文献抄読を行い、研究計画、データ収集を経て、教員の指導のもとに卒業論文として完成させます。このプロセスを通して、各自の看護観を深めると共に、専門職として臨床、教育、研究の各領域で活躍できる基盤を形成します。

③保健師選択課程

「保健師選択課程」は、保健師の国家試験受験資格を得るための選択課程です。先端看護科学コースを選択する学生のうち、保健師選択課程には人数制限があるため、履修志願者の選抜試験が第III Semester終了時に実施される予定です。志願者は、コース選択の要件に加えて、第III Semesterまでに配置されている必修科目の全ての単位を修得していなければなりません。また、第IV Semester終了時まで、全学共通科目および専門基礎科目の卒業に必要な単位、および第IV Semesterまでに配置されている専門科目の単位を全て修得していることが必要です。条件を満たさない場合は、保健師選択課程を履修することはできません。「保健師選択課程」を選択した場合は、第VおよびVI Semesterに配置されている専門科目および専門基礎科目の単位を修得していなければ、第VII Semesterで行われる演習を履修することができません。また、演習の単位を満たすことができない場合は、臨地実習を履修することができません。なお、原則として入学年度から4年間に保健師課程必修科目の全ての単位を修得していなければなりません。

④専門科目課程表

先端看護科学コース

区分	授業科目	単位		時間数	年次および時間数								備考			
		必修	選択		1年		2年		3年		4年					
					I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII				
基礎看護学	基礎看護学	2		30				30								
	看護管理学	1		15						15						
	看護倫理学	1		15						15						
	基礎看護学技術論	2		30				30								
	基礎看護学技術演習Ⅰ	1		30				30								
	基礎看護学技術演習Ⅱ	1		30				30								
	臨床基礎看護学Ⅰ	1		15				15								
	臨床基礎看護学Ⅱ	3		45				45								
	臨床基礎看護学技術演習	1		30				30								
	臨床基礎看護学実習	2		90				90								
	臨床看護学	成人看護学概論	2		30					30						
		成人看護学Ⅰ	1		15					15						
		成人看護学Ⅱ	1		15					15						
		成人看護学Ⅲ	1		15					15						
		緩和ケア論	2		30					30						
高度医療看護論		1		15					15							
成人看護学演習		1		30					30							
成人看護学実習Ⅰ		2		90					90							
成人看護学実習Ⅱ		2		90					90							
成人看護学実習Ⅲ		3		135					135							
精神		精神看護学Ⅰ	2		30					30						
		精神看護学Ⅱ	1		15						15					
		精神看護学演習	1		30						30					
		精神看護学実習	2		90						90					
小児		小児看護学	3		45						45					
	小児看護学演習	1		30						30						
	小児看護学実習	2		90						90						
	家族看護学	1		15					15							
	母性	母性看護学	2		30						30					
母性看護学演習		1		30						30						
母性看護学実習		2		90						90						
在宅		在宅ケア論	3		45						45					
	在宅看護論演習	1		30							30					
	在宅看護論実習	2		90							90					
地域看護学	地域看護学概論	1		15				15								
	地域看護活動概論	1		15				15								
	地域看護診断学	2		30						30						
	地域看護活動論Ⅰ	1		15						15						
	地域看護活動論Ⅱ	1		15						15						
	地域看護活動論Ⅲ	1		15						15						
	地域看護活動論Ⅳ	1		15						15						
	保健行動学習論	1		15						15						
	家族相談援助論	1		15						15						
	地域保健看護展開論	1		15						15						
	保健看護政策論	1		15						15						
	保健医療福祉行政論	1		15						15						
	地域看護学演習	2		60							60					
地域看護学実習	5		225								225					
統合看護	看護研究法	1		15						15						
	統合実習	2		90							45	45	卒業試験 を含む			
	統合看護（卒業論文）	2		90							45	45				
合計		62		1680	0	0	0	330	510	540	210	0				
保健師課程合計			18	450	0	0	0	0	0	165	285	0				

[先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座）]

①専門教育

先端リハビリテーション科学コースを選択した後の第IV Semesterでは、リハビリテーション評価学総論、運動機能評価学実習、入門理学療法・作業療法など先端リハビリテーション科学コース共通の専門科目を学びます。

理学療法学講座を選択した後の第V Semesterでは、先端リハビリテーション科学コース共通の専門科目に加えて、理学療法評価学実習や各疾患別の理学療法治療学などについて理学療法学の専門科目が始まり、それまでに学習してきた基礎医学と理学療法学を結びつけるような講義および実習を行います。

臨床実習によって理学療法の実際を経験した後の第VII, VIII Semesterでは、肉眼解剖学IIIや発展臨床実習などによって、さらに理学療法学を深めるとともに、発展基礎科目によって理学療法学の広がりを学びます。

②臨床実習と卒業研究

第VI Semesterより臨床評価実習が行われます。臨床評価実習Ⅰ・Ⅱでは京都大学医学部附属病院において、専門職教員の指導のもと、理学療法評価から問題点抽出・理学療法プログラムの立案までを経験します。臨床実習Ⅰ・Ⅱでは京都大学医学部附属病院だけでなく、本講座と提携している近隣府県のさまざまな病院において、これまで習得してきた知識および技術が実際の臨床現場でどのように活かされるのかを確認し、理学療法の一連の流れを経験します。また患者さんや他の医療職種と接することで、人と人との協調関係も学びます。地域臨床実習では近隣府県のさまざまな施設において、通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションに関する実習を行います。さらに、臨床実習Ⅱ終了後に実施される発展臨床実習では、京都大学医学部附属病院において、専門職教員の指導のもと、各専門分野に分かれて、より専門的な臨床実践を行います。

卒業研究は第VII Semesterに行うもので、各指導教員のもと、一定のテーマで研究を行います。研究計画、文献収集から始まり、さまざまな機器を使用したデータ収集、統計解析、論理的考察から論文作成までを自らが主体となって経験し、研究論文を完成させます。それによって将来の研究者、教育者、そして臨床家としての基盤を作ります。

③専門科目課程表

先端リハビリテーション科学コース（理学療法学講座）

区分	授業科目	単位 必修	時間数	年次および時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII			
専門科目	リハビリテーション評価学総論	2	30				30							理学・作業共通
	運動機能評価学実習	1	30				30							理学・作業共通
	入門理学療法・作業療法	1	15				15							理学・作業共通
	日常生活援助学	1	15				15							理学・作業共通
	臨床運動学	1	15				15							理学・作業共通
	精神・認知機能リハビリテーション学	1	15				15							理学・作業共通
	発達障害系リハビリテーション学	1	15				15							理学・作業共通
	運動器リハビリテーション学Ⅰ	1	15					15						理学・作業共通
	内部障害リハビリテーション学	1	15						15					理学・作業共通
	日常生活援助学実習	1	30						30					理学・作業共通
	義肢装具学概論	1	15						15					理学・作業共通
	神経系リハビリテーション学	1	15						15					理学・作業共通
	地域リハビリテーション学	1	15						15					理学・作業共通
	理学療法評価学実習	1	30						30					
	臨床運動機能学	1	15						15					
	運動器リハビリテーション学Ⅱ	1	15						15					
	運動器理学療法学実習	1	30						30					
	神経系理学療法学	2	30						30					
	物理療法学	2	30						30					
	高齢者理学療法学	2	30						30					
	画像評価学	1	15						15					
	呼吸リハビリテーション学	1	15							15				理学・作業共通
	内部障害理学療法学	1	15							15				
	神経系理学療法学実習	1	30							30				
	装具学	1	15							15				
	臨床評価実習Ⅰ	1	45							45				
	臨床評価実習Ⅱ	1	45							45				
	地域臨床実習	1	45							45				
	臨床実習Ⅰ	6	270							270				
	臨床実習Ⅱ	8	360								360			
	肉眼解剖学Ⅲ	1	15								15			
	研究方法演習	2	60								30	30		
卒業研究	6	180								60	120			
発展臨床実習	2	90								45	45			
合計		57	1620	0	0	0	135	300	480	510	195			

[先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）]

①専門教育

先端リハビリテーション科学コースを選択した後の第IVセメスターでは、理学療法学、作業療法学共通の専門科目を学んでいきます。入門理学・作業療法、リハビリテーション評価学総論でリハビリテーションについて学習をはじめ、運動器リハビリテーション学I、精神・認知機能リハビリテーション学、発達障害系リハビリテーション学、日常生活援助学で各疾患・障害別のリハビリテーション学を学びます。

作業療法学講座を選択した後の第Vセメスターでは作業療法の専門科目として、作業学、作業分析学演習、作業療法評価学実習、生活機能作業療法学、発達過程作業療法学、精神機能作業療法学により、それまでに学習してきた基礎医学と臨床医学を結びつける講義を行います。また、第Vセメスターの後半から講義や演習と平行し、臨床評価実習により対象児・者の作業療法評価を行い、講義や演習で学んだことを実際の臨床へとつなぎます。また、作業療法管理運営学により作業療法倫理、管理、運営について学びます。

第VIセメスター後半から第VIIセメスターは総合臨床実習Iと総合臨床実習IIにより、臨床現場における作業療法の実験を経験します。第VII、VIIIセメスターでは臨床研究・臨床開発概論、ビッグデータ医科学総論、iPS再生医療学概論、卒業研究により、作業療法学を深めていきます。

②臨床実習と卒業研究

第Vセメスター後半から講義や演習と平行し、臨床評価実習が行われます。臨床評価実習では、対象児・者の協力のもと面接、観察、身体機能、精神・認知機能、発達等の作業療法の評価方法の習得、評価のまとめ、問題点の抽出、治療計画の立案までを経験します。第VIセメスター後半より総合臨床実習（総合臨床実習Iと総合臨床実習II）として、身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野の病院、施設で作業療法の一連の流れを経験します。第VIIセメスターでは、地域臨床実習にて通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションに関する実習を行います。さらに総合臨床実習（総合臨床実習Iと総合臨床実習II）をふまえて先端作業療法実習では、各指導教員の指導のもと先端的・発展的な実習を行います。

卒業研究では、指導教員のもと、各自が研究テーマを決め、研究を行います。文献収集、研究計画、データ収集、統計解析、考察までの過程を経験し、研究論文を作成します。この卒業研究は修士課程、博士後期課程の研究の基盤となります。

③専門科目課程表

先端リハビリテーション科学コース（作業療法学講座）

区分	授業科目	単位 必修	時間数	年次および時間数								備考		
				1年		2年		3年		4年				
				I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII			
専門科目	入門理学療法・作業療法	1	15				15							理学・作業共通
	臨床運動学	1	15				15							理学・作業共通
	リハビリテーション評価学総論	2	30				30							理学・作業共通
	運動機能評価学実習	1	30				30							理学・作業共通
	日常生活援助学	1	15				15							理学・作業共通
	日常生活援助学実習	1	30					30						理学・作業共通
	運動器リハビリテーション学Ⅰ	1	15					15						理学・作業共通
	義肢装具学概論	1	15					15						理学・作業共通
	神経系リハビリテーション学	1	15					15						理学・作業共通
	内部障害リハビリテーション学	1	15					15						理学・作業共通
	呼吸リハビリテーション学	1	15						15					理学・作業共通
	精神・認知機能リハビリテーション学	1	15				15							理学・作業共通
	発達障害系リハビリテーション学	1	15				15							理学・作業共通
	地域リハビリテーション学	1	15					15						理学・作業共通
	作業学	1	15					15						
	作業分析学演習	2	60					60						
	作業療法評価学実習	2	90					45	45					
	生活機能作業療法学	1	15					15						
	生活機能作業療法学演習	1	30						30					
	発達過程作業療法学	1	15					15						
	発達過程作業療法学演習	1	30						30					
	高齢期作業療法学	1	15						15					
	高次脳機能作業療法学	1	15					15						
	精神機能作業療法学	1	15					15						
	精神機能作業療法学演習	1	30						30					
	地域作業療法学	2	30								30			
	作業療法管理運営学	1	15					15						
	先端作業療法学実習	1	45								15	30		
	卒業研究	3	90								30	60		
	地域臨床実習	1	45								45			
臨床評価実習	3	135						45	90					
総合臨床実習Ⅰ	9	405							405					
総合臨床実習Ⅱ	9	405								405				
合計		57	1665	0	0	0	105	270	660	525	90			

[総合医療科学コース]

①専門教育

総合医療科学コースでは、個々の学生の特性、能力の多様性、自主性を重んじ、また豊かな教養と倫理観を身につけるよう支援します。教員からの一方向性の教育だけでなく、学生と教員の双方向性の教育、講義とともに体験により理解を深める実習も重視します。

第Ⅳセメスターから、総合医療科学コースの学生に共通して習得しておくべき基礎的な科目である総合基礎科目が開講されています。この総合基礎科目は、必修となる11の講義科目と、5科目中2科目以上を選択する実習科目からなります。

第Ⅴセメスターからは、総合医療科学コースの以下の3つの講座に関して、より専門性の高い総合専門科目が開講されています。

- 1) 生命・基礎医科学講座（生命情報解析学分野，生命情報展開学分野，生命情報統合学分野）
- 2) 臨床医科学講座（緩和医療学分野，臨床開発運営学分野，高度臨床検査技師養成分野）
- 3) 医療理工科学講座（先端医療画像解析学分野，先端医療機器システム学分野，先端医療データ解析学分野）

発表や討議により研究方法の基礎を習得する 総合医療特別セミナーⅠ，Ⅱは必修科目ですが、それ以外は選択科目です。各講座では履修を推奨する科目を標準メニューとして示されていますが、各自が希望に合わせて自由に選択することができます。

②卒業研究

第Ⅶ，Ⅷセメスターになると、生命・基礎医科学講座，臨床医科学講座，医療理工科学講座のいずれかの研究室を選び、on the research trainingとなる卒業研究を行います。この卒業研究を通して「自ら問題点を見だし、それを解決していく能力」を養います。

③臨床検査教育プログラム

以下に示された所定の科目の講義，および第Ⅵセメスターに行われる臨床実習で構成された臨床検査教育プログラムを履修し単位を修得することで，臨床検査技師の国家試験の受験資格を得ることができます。

臨床検査教育プログラムの履修科目

専門基礎科目 総合で必修の 31単位

総合基礎科目 全科目 27単位

総合専門科目 以下の 34単位

(医用信号解析学演習，検査情報統計学，放射性同位元素検査技術学，臨床化学Ⅰ，臨床化学Ⅱ，臨床化学実習，細胞組織検査学，細胞組織検査学実習，感染症学Ⅱ，感染症学実習，感染制御学，免疫学Ⅱ，免疫学実習，臨床生理・超音波診断学Ⅱ，臨床生理・超音波診断学実習，臨床検査病態学，臨床検査精度管理学，臨床検査総論，臨床検査総論実習，臨床実習)

(総合医療特別セミナーⅠ，Ⅱに替えて，臨床実習を履修します)

④専門科目課程表

総合医療科学コース

区分	授業科目	必修・選択			単位数	時間数	年次および時間数								
		医療理工学	生命・基礎医学	臨床医学			1年		2年		3年		4年		
							I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	
総合基礎科目	医用イメージング概論	□	□	□	2	30				30					
	医用電子工学	□	□	□	2	30				30					
	医用電子工学実習	◎	◎	◎	1	45				45					
	非侵襲画像検査学Ⅰ	□	□	□	2	30				30					
	医用信号解析学	□	□	□	2	30				30					
	医用信号解析学実習	◎	◎	◎	1	45					45				
	生化学	□	□	□	2	30				30					
	生化学実習	◎	◎	◎	1	30				30					
	分子細胞生物学	□	□	□	2	30				30					
	分子細胞生物学実習	◎	◎	◎	1	30				30					
	器官病理学	□	□	□	2	30				30					
	血液学	□	□	□	2	30					30				
	血液学実習	◎	◎	◎	1	30					30				
	免疫学Ⅰ	□	□	□	2	30				30					
	感染症学Ⅰ	□	□	□	2	30				30					
	臨床生理・超音波診断学Ⅰ	□	□	□	2	30					30				
	(実習は、◎の5科目中2科目以上選択) 計		24	24	24	27	510	0	0	0	375	135			
	専門科目	医用画像解析学	○			2	30					30			
		非侵襲画像検査学Ⅱ	○			2	30					30			
		医用信号解析学演習	○			1	15					15			
		検査情報統計学	○			1	15						15		
		放射性同位元素検査技術学	○	○		2	30						30		
		臨床化学Ⅰ		○		2	30					30			
		臨床化学Ⅱ		○		2	30						30		
		臨床化学実習		○		1	45						45		
		細胞組織検査学	○	○	○	1	15					15			
		細胞組織検査学実習	○	○	○	1	30					30			
感染症学Ⅱ			○		1	15					15				
感染症学実習			○		1	45						45			
感染制御学			○		1	15					15				
実験動物学			○	○	1	15					15				
免疫学Ⅱ			○	○	1	15					15				
免疫学実習			○	○	1	30				30					
臨床生理・超音波診断学Ⅱ		○		○	2	30						30			
臨床生理・超音波診断学実習		○		○	1	30						30			
臨床検査病態学		○		○	2	30						30			
臨床検査精度管理学		○	○	○	1	15						15			
臨床検査総論				○	2	30					30				
臨床検査総論実習				○	2	60					60				
医用シミュレーション科学		○			1	15					15				
医療情報システム学		○			1	15						15			
法医学		○	○	○	2	30					30				
iPS再生医療学各論			○	○	2	30							30		
臨床実習		◎	◎	◎	8	360						360			
総合医療特別セミナーⅠ	◎	◎	◎	4	120						120				
総合医療特別セミナーⅡ	◎	◎	◎	4	120							120			
卒業研究	□	□	□	8	360							180	180		
計		36	36	36	61	1650	0	0	0	30	345	765	330	180	
専門科目 (総合基礎+総合専門)		60	60	60	88	2160	0	0	0	405	480	765	330	180	

- ※ 必修・選択の欄の各分野の標準メニューとして、'□'は必修、'◎'は選択必修、'○'は履修がのぞましい科目を表す。
- ※ 「臨床実習」または「総合医療特別セミナーⅠ、Ⅱ」は何れか一方を履修すること。(臨床検査教育プログラムの履修者は「臨床実習」を選択し、それ以外は「総合医療特別セミナーⅠ、Ⅱ」を選択する)
- ※ 標準メニューとは、その分野で必要とされる標準的な科目として履修を推奨するもので、'□'の必修科目以外は卒業要件の単位数(専門科目60単位)を満たす範囲で他の科目を履修しても良い。

2-4 コース選択要件

コース選択をするには、第Ⅲ Semester 終了時までには、以下の単位を修得しなければなりません。
 人間健康科学Ⅱ 1単位，人間健康科学Ⅴ 2単位，全学共通科目 38単位以上（人文・社会科学科目群10単位，自然科学科目群10単位，外国語科目群 英語8単位（「英語リーディング」計4単位，「英語ライティング・リスニングA・B」各2単位計4単位を修得すること），情報学・健康・スポーツ・キャリア形成・統合科学・少人数教育科目群から10単位を含む）

※希望のコースへ配属されますが、以下のとおり定員数に上限があります。

- ・先端看護科学コース 70名（内，保健師選択課程 20名）
- ・先端リハビリテーション科学コース 80名
 講座選択時（第Ⅳ Semester 終了時）に理学療法学講座40名，作業療法学講座40名の上限があります。
- ・総合医療科学コースでは上限を設けていません。（ただし，第Ⅵ Semester に行われる臨床実習には履修者数の上限を設けます）

2-5 履修要件・進級要件

各コースの該当 Semester の科目履修に際して、以下の要件を満たさなければなりません。

コース	履修要件・進級要件
先端看護科学コース	各実習科目を履修するには、当該実習に関連する講義・演習科目の単位をその同一 Semester 内で修得していなければならない。講義・演習科目に合格していない場合は、当該科目の実習を履修することができない。
先端リハビリテーション科学コース （理学療法学講座）	臨床評価実習Ⅱ，地域臨床実習および臨床実習の履修要件 第Ⅵ Semester 前半終了時までには開講された専門基礎科目および専門科目のうち、理学療法学講座学生が履修すべき、すべての単位を修得していること。
先端リハビリテーション科学コース （作業療法学講座）	総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ、地域臨床実習および先端作業療法実習の履修要件 総合臨床実習Ⅰ開始までには開講された専門基礎科目および臨床実習を含む専門科目のうち、作業療法学講座学生が履修すべき、すべての単位を修得していること。

<p>総合医療科学 コース</p>	<p>1) 血液学実習、臨床検査学総論実習、免疫学実習の履修要件 感染症対策のため、血液検査にてB型肝炎抗原、C型肝炎抗原、B型肝炎抗体の3項目の結果を実習開始日までに、単位認定者に通知しておくこと。</p> <p>2) <u>3年次への進級に必要な要件</u> 第IV Semester終了時において、物理学実験または基礎化学実験のどちらかの単位を修得していること。</p> <p>3) 卒業研究及び総合医療特別セミナーⅡの履修要件 第VI Semester終了時において、以下の要件をすべて満たしていること。 ①卒業に必要な全学共通科目の54単位（卒業要件参照）を修得している。 ②それまでに開講の全ての必修科目を修得している。 ③総合専門科目の選択科目 16単位以上を修得している。</p> <p>4) 臨床実習の履修要件※ 第V Semester終了時において、以下の要件をすべて満たしている場合のみ、臨床実習を受けることができる。 ①卒業に必要な全学共通科目の54単位（卒業要件参照）を修得している。 ②第V Semesterまでに開講している、臨床検査教育プログラム用の科目を修得している。 ※臨床検査教育プログラムの履修科目の詳細は、6頁を参照のこと。 ※臨床実習の履修者数は上限を設けます。 応募者がこれを上回った場合、上記①②の成績および応募者全員に課すレポートの評価を総合的に勘案し、履修者を選抜します。なお、臨床実習以外は、履修人数の制限はありません。</p> <p>5) その他科目の履修要件 総合基礎科目 ①実習科目（医用電子工学実習、医用信号解析学実習、生化学実習、分子細胞生物学実習、血液学実習）については、選択必修であり、5科目中、2科目以上履修すること。 ②医用信号解析学実習の履修要件 医用信号解析学の単位を修得、かつ医用信号解析学演習を履修すること。</p> <p>総合専門科目 ①医用信号解析学演習の履修要件 医用信号解析学の単位を修得、かつ医用信号解析学実習を履修すること。 ②臨床化学Ⅱの履修要件 臨床化学Ⅰの単位を修得していること。 ③臨床化学実習の履修要件 臨床化学Ⅰの単位を修得、かつ臨床化学Ⅱを履修すること。 ④細胞組織検査学および細胞組織検査学実習の履修要件 同時に履修することとし、一方のみの履修を認めない。</p>
-----------------------	--